

地域情報（県別）

【東京】2024年にクリニックを開設し外来を移行「病院機能拡充し、外来の受診しやすさも維持したい」-松尾成吾・森山記念病院院長に聞く◆Vol.1

2023年6月23日（金）配信 m3.com地域版

「断らない救急医療」をテーマに年間5000～7000台の救急搬送を受け入れ、注力する脳神経外科には全国から患者が訪れる——。こんな特徴を持つ森山記念病院（江戸川区）は2024年、新たにクリニックを開設する。「救急を含めて病院の機能を拡充し、外来患者さんの受診しやすさも維持したい」と松尾成吾院長は理由を話す。どうか。病院の歴史を振り返りつつ、「国の制度を踏まえた病院運営」について聞いた。（2023年6月1日インタビュー、計2回連載の1回目）

▼第2回は[こちら](#)



松尾成吾氏

——森山記念病院は、救急医療と脳神経外科に注力する病院だと聞きます。まずは、病院の成り立ちについて教えてください。

当院の始まりは1982年、森山貴理事長が開いた森山病院です。森山理事長は当時、救急医療が整っていないためにくも膜下出血で若い患者さんが亡くなってしまおう状況を目のあたりにし、病院をつくったと聞きます。そんな背景で救急医療と脳神経外科に注力していくなか、病院の機能分化を進めようと2002年に「急性期特化型」として開院したのが当院です。

現在は「断らない救急医療」をテーマに東京スカイツリーから東京ディズニーランドの間を救急の診療圏とし、年間5000～7000台の搬送を受け入れています。注力するもう一方の脳神経外科には私を含めて10人の専門医が在籍し、全国各地や海外からも患者さんが来院しています。

——資料によると、日本脳卒中学会の「一次脳卒中センターコア施設」に認定されているとあります。

脳神経外科における脳卒中部門は当院の柱です。「一次脳卒中センター（PSC）」とは、地域の医療機関や救急隊からの要請に対して24時間365日にわたって脳卒中患者さんを受け入れ、スピーディーに点滴での血栓溶解療法（t-PA静脈療法）などを行える施設を示します。日本脳卒中学会が2019年に認定を始め、2020年からは24時間365日カテーテルによる脳血栓回収療法を実施できる施設を「一次脳卒中センターコア施設」として認定しています。

ほかの要件には、「脳血管内治療専門医と脳血栓回収療法実施医を合わせた常勤医が3人以上いること」「血栓回収治療実績が年間12例以上あること」「脳卒中相談窓口を設置すること」——などがあり、当院は2021年に委嘱されました。現在、都内では30の施設が該当し、江戸川区と隣接する江東区では当院のみです。常勤の脳神経血管内治療の指導医・専門医が5人もいる病院は全国的にも少なく、先端的な治療が行うことができます。

——法人が運営する他の病院や高齢者施設との連携、社会医療法人に認定されていることも特徴だと思いました。

シームレスかつ包括的に医療・介護を提供しようと、2002年に回復期医療を中心とする森山リハビリテーション病院を、2010年に介護老人保健施設の森山ケアセンターを開設しました。森山リハビリテーション病院は2016年に森山脳神経センター病院に改称しました。

社会医療法人に認定されたのは2013年です。同法人は公立病院が担うような「公益性の高い医療」を行っている医療機関を国が認定しており、当院は主に救急医療への注力が評価されました。ほかにも、2017年に江戸川区では初となる地域包括ケア病棟の設置、2018年の災害拠点病院指定も歴史上のトピックです。

——そんな森山記念病院は2024年にクリニックを開設するといいます。新しいクリニックの概要は。

2024年の夏、当院の隣に「森山総合クリニック」を開設します。現在はコインパーキングになっている土地を活用して2023年9月に着工し、2024年の8月か9月に開院する予定です。建物は5階建てで、敷地面積は475平方メートル、延べ床面積は1525平方メートルです。

当院は注力する救急医療と脳神経外科のほかにも、外科や循環器内科、整形外科など多くの診療科で地域に頼られる存在を目指しています。大腸肛門外科や泌尿器科、耳鼻咽喉科、歯科、消化器内科、糖尿病内分泌代謝内科などにも患者さんが来院しており、これらの一般外来の多くをクリニックに移します。乳腺外科の新設も視野に入れていきます。

ハード的な変化としては病院より診察室が増える予定で、現在の10診から12、13診になります。コロナ禍の経験を踏まえて1階に発熱外来を設置して患者さんの動線分離を図るほか、設備面では病院にあるものとは別にCTなどを新設します。



クリニックが造られる駐車場（右隣が病院）

——病院の外来を移す意味でのクリニック展開なのですね。機能を分ける目的は。

病院の外来スペースを救急搬送に活用して救急患者さんを受け入れやすくすることに加え、外来患者さんの受診しやすさを維持したい思いがあります。現在、外来患者さんが紹介状を持たずに大きな病院を受診すると、診察料とは別に選定療養費として「特別の料金」を支払う必要があります。これは、国が医療機関の役割分担を進めようと2016年度から運用している制度であり、現在、大学病院などの特定機能病院と一般病床が200床以上の地域医療支援病院は徴収する必要があります。

当院の一般病床は199床でありまだ200床未満ですが、今後も病床を増やしていきたいと考えているので、「早めに外来機能を移そう」と判断しました。大学病院はこの制度により高度医療の提供に集中しやすくなるかもしれませんが、当院は高度医療を提供しつつも地域の病院として機能しています。高度急性期・急性期医療を提供する機能を担いつつ、開設するクリニックではかかりつけ医機能を持つ診療所として、地域の人が気軽に受診できるようにしたい——。こうした思いがあるのです。

1980年信州大学医学部卒。同大脳神経外科や米国メイヨークリニック脳神経外科などを経て、2001年獨協医科大学脳神経外科講師。2003年に森山記念病院脳神経外科の部長に就任し、2016年から現職。

【取材・文・撮影＝医療ライター庄部勇太】

記事検索

ニュース・医療維新を検索

